

「平家物語」能登殿の最期 その四

⑳ここに、土佐の国の住人、安芸郷を知行しける支配し けるた 安芸の大領実康がの 子に、安芸太郎実光とて、三十人が力持つ持つ たる持っている 大力の剛の者が ありいた。

㉑我実光に少しも ちつとも劣らぬ郎等一人、弟の次郎も普通それに実光の人並み には以上

すぐれたるている したたか者である なり。㉒安芸太郎、能登殿を見たてまつて申し上げ

申しけるた は、㉓「いかに能登殿は 勇ましくおられる ますとしても とも、我ら三人が

能登殿にすがりつい たらら たら例え たらだつた 鬼なり とも、

などかどうして 従へ組み伏せられないことがあ るろうか べき。言つ ㉔主従三人小舟に乗つて、乗つ

能登殿の舟に押し並べ、「えい。」と言つ 言ひて乗り移り、㉕甲の鍛を

かたむけかたむけ、太刀を抜いて一面いっせい に討つてかかる。

《凡例》
 ① 現代語と違う部分に単語単位で傍線を引き、その右側に対応した現代語訳を記している。
 ② 傍線は、単語の区切れで切っている。
 ③ 補足して訳している部分を斜線で挿入している。